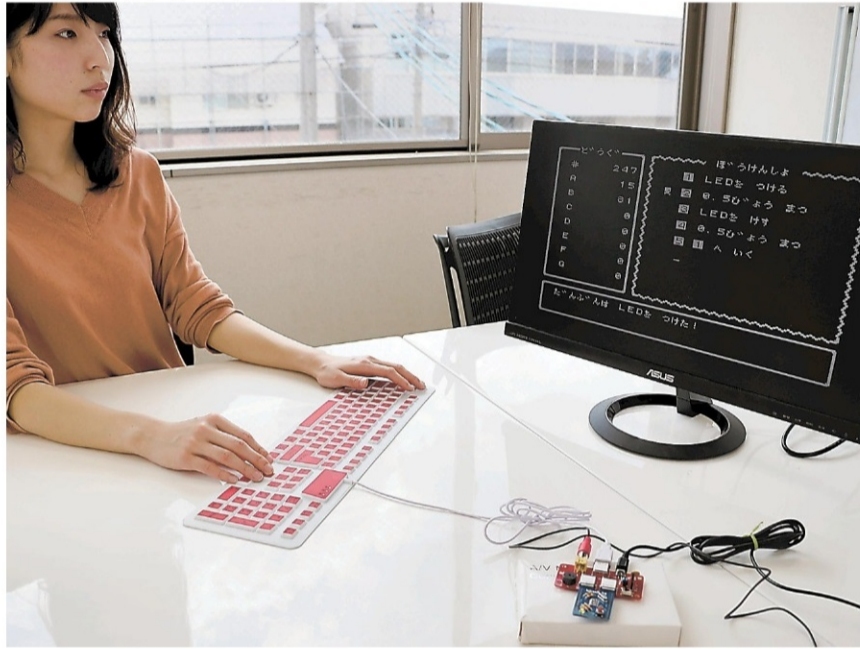


簡単な操作でプログラミングを学べるイチゴンクエストの画面＝福井市のナチュラルスタイル



プログラミング

遊び感覚で基礎習得

県内のIT企業3社の経営者が代表を務める団体「プログラミング・クラブ・ネットワーク(PCN)」は、小学校低学年向けのプログラミング教育用のコンピューター「Ichigon Quest(イチゴンクエスト)」を開発した。英数字を入力しなくても簡単な操作でゲームを作るなどのプログラミングが可能で、遊び感覚でプログラミングを学ぶことができる。(吉川良治)

PCNは、手のひらサイズの子ども向けコンピューター「Ichigojam(イチゴジャム)」を使って子どもたちにプログラミングを教える教室を開いているが、プログラミングには英数字を入力する必要があるため小学校中学年以上を対象とされる。じゅもんには、イチゴンクエストの基板に取り付けてある発光ダイオード(LED)を点灯させるなどの項目があり、どっちを使うかで、LEDを何回点灯させるといった条件を設定できる。じゅもんやどっちを使って何をするかまとめたものを、ほつけんしょに保存する。キーボードの矢印、エンター、エスケープの各キーのみを使い、簡単な操作でプログラミングの基礎を習得できる仕組み。

県内団体「PCN」 小学校必修備えPC開発

していた。2020年度からの小学校でのプログラミング教育必修化を見据え、低学年の児童にも親しんでもらおうと、PCNの代表者の一人、松田優一さんが社長を務めるナチュラルスタイル(NS)＝福井市＝が開発を担当した。イチゴンクエストを使用するには、入出力端子などを備えた機器「Ichigojam(イチゴイガイ)」に、モニターとキーボードなどが必要となる。起動すると、モニターに「じゅもん(コマンド)」、「どっち(変数)」、「ほつけんしょ(プログラム)」などが表示さ

低学年向け操作簡単